

## 横地分類

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

〈知的発達〉					
E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1
簡単な計算可 簡単な文字・数字の理解可 簡単な色・数の理解可 簡単な言語理解可 言語理解不可					
〈特記事項〉 C: 有意な眼瞼運動なし B: 盲 D: 難聴 U: 両上肢機能全廃 TLS: 完全閉じ込め状態					
寝返り不可 寝返り可 座位保持可 室内移動可 室内歩行可 戸外歩行可 (移動機能)					

これは、自分にとって保護者  
 が必要者かのランク付けを  
 して、多くの他者を区分けし  
 ていることを示します。この  
 時期を経て、他者に対し、い  
 とおしい、憎らしい、ほめたい  
 いじめたい、屈服させたいと  
 いった意思を抱くようになって  
 いきます。暴力をふるって  
 も相手は反撃できないだろう  
 という認識はさらにずーっと  
 先のことでしょう。

でない生き物との区別は曖昧  
 なままのように思えます。な  
 お、無生物との区別はついて  
 いそうです。この時期では、  
 同種のヒトは自分を攻撃しな  
 い存在であるとの生得的性善  
 説を持つていると私は考えま  
 す。よって、乳児期前期では  
 他者に興味を持ち、その理解  
 を進めていくことができます  
 また、この時期では、同居者  
 と新規来訪者を区別できなく  
 ても、ともに警戒不要の空気  
 のような存在として受け入れ  
 られるように思えます。この  
 時期の乳児では、他者から叩

かれても、その悪意の理解は  
 まだないはずで。叩かれる  
 痛みが許容範囲ならば、ヒト  
 以外の生き物や無生物から受  
 ける外力と区別できないもの  
 かもしれません。  
 前述のTさんを叩くSさん  
 も、この乳児期前期の子たち  
 の他者理解をもとにすべきと  
 私は考えます。Sさんの他者  
 理解レベルからみて、Tさん  
 にどういう意思を向けたのか  
 を想像しなければなりません  
 また、叩かれたTさんは、叩  
 かれたことをどう受け止めた  
 のかも想像しなければなりま  
 せん。これらの想像をもとに  
 対策を考え、それを実践して  
 の問題行動がなくなれば、そ  
 の想像が正しかったのでしょ  
 う。問題行動がなくなれば  
 ばなりません。私たちはこん  
 なふうに考え問題行動に向き  
 合っています。



### うららの

#### 日常活動紹介

宇野 千恵

Aさん(横地分類B3)

は、メロディブツクのスイッ  
 チを指で押して音を出したり  
 ボールの手触りを感じるよう  
 にボールに触れたりすること  
 があります。手応えを感じな  
 がら自分で操作する活動を行  
 いました。Aさんは始め、職  
 員がゆっくりとボールを枠の  
 中にはめ込む様子をじっと見  
 ていました。枠の中にはめ込  
 んだボールが落ちて「コトン」  
 と音がなり、別の穴から出て  
 くと、Aさんはすぐにボー  
 ルがどこから出てくるのかを  
 見つけ、出てくる場所に視線  
 をうつしました。数回繰り返し

すと、穴から出てきたボール  
 が転がって止まるのを見て表  
 情を緩めていました。Aさん  
 は職員が行っているのを何回  
 見ると、近くに置いてあっ  
 たボールを自分で掴み、枠の  
 中にはめ込もうとしました。  
 枠の周りにはゴムがはられて  
 いて置いただけではボールは  
 落ちません。はめ込むときに  
 は手で少し押さないといいま  
 せん。Aさんは、枠の中にま  
 ず真剣な表情でボールを置き  
 ました。さらに掌に力を入れ  
 てボールを押し込んでいまし  
 た。そして押し込んだボール  
 が転がり、穴から出てくるの  
 をじっと見ていました。ボー  
 ルの動きが止まると職員と顔  
 を合わせ、表情を緩ませてい  
 ました。落ちた後に音がして、  
 ボールが別の場所から出てく  
 るという手応えやボールの一  
 連の動きの変化に注目して、  
 集中して取り組んでいました。  
 Bさん(横地分類A1)は  
 リビングで流れている音楽や  
 近くで本を読んでいるとその  
 語りかけの声にじっと耳を澄  
 ませる様子があります。『も  
 しもしおでんわ』という絵本  
 を語りかけました。「なあに」  
 「だあれ」などの伸びるよう  
 な言葉が出てくると、目を少  
 し動かしてそれまでとは違っ  
 た語りの抑揚に気付いたよう